



巻頭言

「平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる。」

(新約聖書：マタイによる福音書 5章9節)

学院長・宗教総主事・大学長

こむろ なおこ
小室尚子



新入生の皆さん。ご入学おめでとうございます。皆さんの大学生活の上に神の祝福を祈ります。

金城学院は、福音主義キリスト教（プロテスタント・キリスト教）の精神に基づいて教育がなされています。幼稚園、中学校、高等学校、大学、大学院と全ての学校がその建学の精神に立っています。表題に掲げたのは、キリスト教の正典である『聖書』の中の言葉です。本学院では、毎年、聖書から言葉を選んでその年度の「学院聖句標語」としています。2024年度の聖句標語は、新約聖書のマタイによる福音書に記されているイエス・キリストの言葉「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」です。

2022年2月から始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、止む気配が見えません。そして2023年10月にはイスラエルとパレスチナ間で戦争が始まりました。また他の地域でも対立や暴力の応酬が続いています。犠牲者の数は増すばかりです。いっばうで平和を求める願いや行動はかき消されるばかりです。

そのような人間世界の中でキリストは、「平和を実現する人々は幸いである」と言われます。実は、聖書における「平和」は、国や民族間の戦争がない状態というよりも、神と人との関係が正しく保たれている状態を意味

しています。ということは、聖書の「平和」の概念は、一般に使われている人間同士の対立や争いがなくなるといった意味の「平和」の基盤になるものだけということです。ですので、この教えは、天地を完全な平和の姿に創造された神を忘れて、世界を争いの世界にしてしまった人間にとって先ず為すべき事は、神との関係を正しい関係にもどそうと努めること、それを「平和を実現する人々」と言っているのです。全ての人間に、生きるように命を与えられる神は、神を愛し、人を愛することを求められ、この世界の管理を人間に託されたのです。憎しみに打ち勝つことができるのは「隣人を愛すること」のみです。

イエス・キリストを通して示された「神の愛」によって、人は「共に生きる」存在であるという精神を持つ本学院ですから、その愛によって互いに愛し合うことの大切さと平和を求めることを発信し続けていく使命があります。そのことを、本学院に連なる全ての者があらためて心に刻みたいと思います。

*金城学院大学は、2022年に設立された愛知県ユニセフ協会の立ち上げメンバーとして、ユニセフの活動に協力しています。戦火や飢餓の犠牲になっている子どもたちから目を逸らすことなく、平和を実現する一員になりましょう。

私の教会

日本基督教団中京教会

入試広報部次長
はら さき しゅう へい
原 崎 周 平



日曜日の朝、金城学院中学校の正門前では、待ち合わせの中高生たちが集まっています。彼女たちが向かうのは、正門のすぐ前にある「中京教会」です。朝9時から始まる教会学校では幼児から高校生までが一緒に礼拝を守ります。正門前の教会、金城学院の中高生たちにとっては文字通り、一番「身近な教会」です。

中京教会は、金城学院、名古屋学院（名古屋中学校・高等学校）との結びつきが強い教会です。金城学院よりも2年早く創立した名古屋英和学校（現名古屋学院）。そこに派遣された宣教師や生徒たちの祈祷会がこの教会の前身、1898年、伝道の始まりです。



その後、1955年に名古屋学院は東区大幸町へ移転することになり、土地の売却先を探していました。時を同じくして、金城学院も都市計画によって中高のあった白壁校地に道路が貫通することになり、金城学院は名古屋学院からその土地を購入して中学校を移転しました。（この時、両校の移転時期が重なり、一学期だけ、金城学院の女子生徒と名古屋学院の男子生徒が同じ校地で学んだそうです。）

伝道開始から125年以上経った今も、日曜日、朝10時30分から始まる主日礼拝には、金城学院の卒業生や教職員、名古屋学院に関係する方々やそのご家族が多く参加されます。クリスマス・イブ礼拝では金城学院の卒業生たちがハンドベルの美しい音色を奏でます。名古屋学院から生まれ、育てられ、金城学院に支えられてきた教会。それが私の教会、中京教会です。金城学院に繋がった皆さんにとって、どこよりも敷居の低い「身近な教会」。私が初めてこの教会の礼拝に参加した時も、不思議とスッと入れたの



を覚えています。金城学院と共に歩んできた中京教会の礼拝に、是非お越しください。

私の学生時代

「数学」と「家庭科」と

生活環境学部長
こ であ ひろし
古 寺 浩



私は、高校時代に数学教員にあこがれて大学を受験しました。当時、共通一次試験2年目で、自己採点結果に基づいて岐阜大学教育学部数学科に決め、出願時に希望学科を3つまで書いたので、第1希望「数学」、第2希望「理科」として第3希望空欄のまま受験しました。

合格発表時には、高校時代の友人と大学の掲示板の前に立ち、合格者の受験番号が貼り出されるのを緊張しながら待ちました。そしてその時が来ました。「数学」受験番号無し、「理科」受験番号無しでしたが、友人が別のところで私の受験番号を見つけてくれました。補欠合格なんだろうか？と思いつつよく見ると、合格学科名が「家庭科」でしたので、とても驚きました。

当時は、中学・高校ともに家庭科は女子のみで、男子は技術科でした。何とも納得のいかないまま、合格証を持ち帰り、後日学科の先生への面談を申し入れたところ、「今後、家庭科は男女共修となり、男性の家庭科教員も必要となる」ということで入学を勧められました。もともと他者と同じなのは好まないタイプでしたので、飛び込んでみることにしました。授業では調理実習や被服製作実習も何とかこなしましたが、やはり女子学生にはかなわないという思いがあり、卒論の講座を選ぶ際に「家庭経済」分野を選び、卒論テーマは「生涯生活設計と価値の家計簿」でした。この研究テーマは、現在も取り組んでいるものです。

その後、大学院に進学し、1992年度から金城学院大学で講義していますが、「生活経済学」やファイナンシャルプランナー関係の講義では、黒板に税金の計算式、住宅ローンの計算式、金融資産運用利回りの計算式などを書きながら、数学教員にあこがれていた自分を思い出して時々ニヤニヤしています。



「キリスト教の時間」講演要旨

「平和をつくりだすアジアの友に導かれて」

日程：2023年11月9日(木)

講師：宇井志緒利

明治学院大学非常勤講師
／金城学院中学校・高等学校卒業生



世界各地で続く武力紛争。これ以上取り返しのつかないことを起こさないためには、武器を捨て対話による信頼関係を築くしかない、という想いを更に強くしています。私は学生時代のボランティアを経て、NGOアジア保健研修所(Asian Health Institute: AHI)で25年間働いていました。その中で出会った紛争地域で活動する保健ワーカーたちから、日常の地道な働きをとおした紛争予防、平和の基盤づくりの大切さを教えられました。

1980年代半ばフィリピン・ミンダナオ島にAHIの協力団体を訪問した時、川べりのスラムを案内してくれる予定だった保健ワーカーのパスさんたちが、突然訪問中止を知らせに来ました。前日そこで政府軍と反政府ゲリラの銃撃戦があったので危険だというのです。ですがパスさんたちは、保健ボランティアたちと約束した講習会を行うために、そのスラムに出かけて行きました。彼女たちは住民に信頼され、敵味方の入り混じる地域で役割を与えられたことを神様に感謝しつつ働いていました。私には保健教育本やポスターを抱えた彼女たちが、銃を持つ兵士よりずっと強く見えました。このような活動が、いのちを守る助け合いと信頼にもとづく「平和づくり」なのだと感じました。

その後、米国留学中のカンボジア定住難民の人たちとの出会いをきっかけに、私は内戦が続くカンボジアに長く関わることになりました。カンボジア保健省の保健教育研修チームを育成しながら、彼らが実施する地方の担当者向け研修を支援しました。その中で、政府保健職員と元ゲリラの衛生兵が生活を共にしながら研修に参加し、具体的な共通の保健課題に取り組むことを通して、少しずつ信頼関係を築いていく過程に関わることができました。この参加型研修が保健教育を直接の目的としながら、同時に自信と信頼、協力関係を生み出す平和づくりの役割も果たしていることを確信しました。この研修で起きた個々人の態度や関係の変化は、偶然ではなく、元ゲリラの衛生兵を迎える

10年も前から、カンボジアの保健ワーカーが積み重ねてきた努力の結晶だと思います。

特別な「平和活動」でなくても、私たちにもできることがあります。例えば、異なる年代や背景、文化を持つ人と週に1回お茶する。違うと思っている人とも共通すること・共感できることがあると信じ、一旦先入観や固定概念を横に置いて接してみる。自分の分野・場でやっていることを、少しだけ意識的に平和を前面に置いて考えてみたらどうでしょうか。その基盤は、一人一人が「自分は受け入れられている」「大切にされている」と感じられるグループを、日常の中で学校、職場、地域でつくることです。

私たちが当たり前と思っている繁栄や安定も、近くのまた遠くの誰かの苦しみや犠牲の上にあるのなら、「平和(JUSTPEACEジャストピース)」ではありません。平和をつくりだし、つくり続けるのは、「どこかの誰か」ではなく、私たち一人一人です。それは「声」を聴くことから始まります。声を出せない・出しにくい立場にある人の声、自分の内なる声に耳を傾け、そして「偶然のような必然」「思いがけない出会いや機会」をとおして聞こえる「神様からの招きの声」を聴き逃さない者でありたいと思います。



だった保健ワーカーのパスさんたちが、突然訪問中止を知らせに来ました。前日そこで政府軍と反政府ゲリラの銃撃戦があったので危険だというのです。ですがパスさんたちは、保健ボランティアたちと約束した講習会を行うために、そのスラムに出



アジア保健研修所の研修生たちと



カンボジアでの保健教育研修



元ボルボト派ゲリラ衛生兵の現場訪問

「キリスト教の時間」に出席して（学生の感想）



「教材を抱えた保健ワーカーが、銃を持った兵士よりも強く見えた」という宇井さんの言葉に感銘を受けました。この言葉はとても印象に残る言葉でした。宇井さんが初めてフィリピンにAHIの保健ワーカーとして訪れた時、待ち合わせの場所が政府軍と反政府軍の紛争の場になってしまったそうです。仲間と共にその場に出向いて、そのスラムでできる限りの教育などのサポートをしたそうです。宇井さんの仲間は「神様がここに私を運んでくれる」と言って作業をしていたそうです。その言葉を聞いて、宇井さんは最初の言葉を思ったそうです。何故宇井さんのこの言葉に感銘を受けたのかというと、いくら強い武器を持っていたとしてもやはり教育が一番大事なのだと改めて感じたからです。宇井さんの言葉は、まさにペンは剣より強しだと思いました。保健ワーカーは、戦争にも屈せず、現地の人々に正しい知識を教えるために命を張って行動しているのだと感動しました。また、もっと沢山の人がAHIの行っている活動を知って、外部から支援をしてほしいと思いました。その為にも今の若い世代がアジア諸国の戦争状況などに興味を持つことが大事だと思いました。

宇井さんの長年に渡るカンボジア、フィリピンでの活動を支えたものは、「平和を作り出す者は幸いなり」だと私は考えます。なぜなら、宇井さんは今までは偉い人達が平和を作るのだと思っていたのですが、この言葉によって自分にも平和を作るために出来ることはあると思った、と言っていたからです。また、この言葉は宇井さん自身のモチベーションの言葉だと言っておりました。私は、宇井さんは平和を作り出す人だと思いました。宇井さんから聞いた講義の「平和を作るとは、共に生きること、分かち合い、助け合うこと」のように、宇井さんも現地の人々と生活を共にし、活動を通して意見を交換したり、仲間と現地の保健ワーカーとして出来る限り行動を起こしたからです。これらの素晴らしい行動が出来たのは、一番最初の言葉が宇井さんの心の中にあるからなのかな、と思いました。

外国語コミュニケーション学科1年(当時) はっとり 服部 りこ 莉子

宇井氏は講演内で健康をつくり出すように平和づくりは人と人が協力することでなすことができると述べた。その中でも対話により信頼関係を築いていくことが大切であると考えた。

第一に対話の重要性についてである。そもそも戦争が起きる原因には民族間で考え方の違いや限られた資源の取り合いなどがある。だが信頼関係があれば防げると考えられる。そして信頼関係は対話によるコミュニケーションによって築くことができるのである。講義でもあったように研修に参加した元ボル・ポト派の衛生兵は集団の中でコミュニケーションをとり続けることで信頼関係を築くことができていた。よって対話によりコミュニケーションをとることは信頼関係を築くうえで重要なのである。

また学生生活では集団生活を取り入れていることから対話の重要性がうかがえる。学生の集団生活は他者と協力し合う力や他者理解を育てるものであり、コミュニケーション能力を身に付けることができるのである。対話によって信頼関係を築くためにもこの能力を育てることは大切であると考えられる。

第二に武力による争いは平和から遠のくということである。一度戦争が起きると終戦までに時間がかかってしまう。さらに講義で語られていたようにカンボジアは男性が戦争に行き、女性と子供の国になってしまった。日本は平和主義があるがこれはアジア諸国の侵略戦争で大きな被害が起きた結果、話し合われてようやく制定された。もっと早くから制定されていれば被害は少なかったであろう。日本のように武力に頼らず話し合いで解決するこの憲法が世界に広がれば平和づくりにつながると考えられる。

よって平和づくりには対話による信頼関係を築くことが必要である。まずは小さな集団から信頼できるコミュニティを築き、続けていくべきである。一人一人のその小さな積み重ねが平和づくりに繋がっていくのである。

生活環境学部 食環境栄養学科1年(当時) きだ 木田 はるな 陽菜





宇井氏の講演の中で、平和の実現は、対話を通して信頼関係を構築していく、そういった場を作るところから始まるのだという主張には非常に共感できるものがある。

第一に、信頼を築くには対話が必要であるという点だ。人と仲良くなる、信頼関係を築くためには、相手のことを知る、もしくは自分のことを相手に知ってもらうことが必要だろう。それを達成するためには、行動よりも言葉による対話のほうが自分や相手の考えていることを直接伝え合うことができるため、より効果的である。

第二に、気軽に話せる場を設けるという点だ。いくら相手との対話を望んでいたとしても、その機会が与えられなければ意味がなく、野望を抱くだけになってしまう。そうならないためにも、ただ場を設けるだけではなく、その場にいる皆が協力して話しやすい雰囲気づくりをすることで、対話や交流が可能となる。

これらが個人または国内で実践されるのは、比較的容易なことであろう。しかし、国と国との対話となると話は変わる。なぜなら、国や地域ごとに異なる文化や価値観を持っているからだ。したがって、互いの持つ文化にどれだけ理解があるのか、理解しようと考えているのかによって、対話や交流を行う難易度が変化すると考えられる。一方のみが歩み寄ったとしても、他方が歩み寄る態度を見せなければ対話は成立することがない。

そのため、個人間でなく、国同士といった大きな規模の場合、対話の場を設ける前に、まずはそれぞれが他者や他国に歩み寄ろうとする態度を身につける必要があるだろう。しかしながら、受けた教育の程度に差がある現状では、これを達成することは困難である。したがって、宇井氏の上記の主張は、個人間でのみ成立するものではないだろうか。

薬学部薬学科1年(当時) ばん 坂 あゆか 垂友加



礼拝説教要旨

卒業予定者礼拝

2024年1月15日(月) 朝の礼拝

「互いを生かしあう」

事務局長 す わ 諏訪 とおる 徹

ここ数年、ソーシャルディスタンスを守り三密を避けるという理由もあって、ネット通販が広がり、無人販売所、セルフレジ、レジ無し店舗や無人のジムなど、人との関わりを持たなくてもよい仕組みが増えてきました。私たちは一見便利になった生活において、自分に関わる人を選別し、人との関わりをなるべく避けるようになってきたのではないのでしょうか。

しかし、聖書はそれとは反対に、人とどんどんと関われと教えています。今日の聖書箇所「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」とあります。これは、人と積極的に関わりなさいというメッセージです。

先ほど賛美した讃美歌21の512番では、自分が大切にしている「いのち」「手足」「声」「愛」を主に献げ、あなたのために用いてください、と歌いました。

あなたとは主、主とは神です。神様は人から何かをしてもらわなければ困るお方ではありません。つまり、主に献げるとは、私の持っているものを人のために用いてください、ということです。言い換えれば、人との関わりを持たせてください、と願っているのです。

卒業後社会に出れば、自分と相性が合う人とはばかり関わりを持ってよいのではなく、逆にそうではない人たちとの関わりも頻繁に持つこととなります。避けて表面的なつながりに終始するのではなく、その人たちと積極的に関わることによって、互いを認めあうきっかけを掴むのです。

それは、金城学院の存在意義「互いの尊厳を認め、互いを生かしあえる、愛に基づく社会をつくる。」にも直結するものです。他の人のために自分の持てる力を尽くすこと、その広がりによって「互いを生かしあう」ことにつながります。これを実現するためには積極的な人との関わりが必要となります。関わりを持つとは、言葉だけではなく、隣人に寄り添うこと、心に寄り添うことでもあります。その行動によって、愛に基づく社会をつくることにも貢献していくのです。

礼 拝

イースター記念礼拝

- 4月8日(月) 吉松 純 大学宗教主事
- 9日(火) 落合建仁 文学部宗教主事
- 10日(水) 松谷暉介 薬学部宗教主事
- 11日(木) 小室尚子 学院長・宗教総主事・大学長
- 11日(木) 吉松 純 大学宗教主事
- 12日(金) 落合建仁 文学部宗教主事
- 15日(月) 戸蒔 創 理事長
- 16日(火) 小室尚子 学院長・宗教総主事・大学長
- 17日(水) 松谷暉介 薬学部宗教主事
- 18日(木) 田口博之 日本基督教団名古屋教会牧師
- 18日(木) 落合建仁 文学部宗教主事
- 19日(金) 原田 望 大学事務部長
- 22日(月) 吉松 純 大学宗教主事
- 23日(火) 八東 清 日本基督教団御器所教会牧師
- 24日(水) 辻 順子 日本基督教団鳴海教会牧師
- 25日(木) 江連 実 日本基督教団豊田教会牧師
- 25日(木) 松谷暉介 薬学部宗教主事
- 26日(金) 落合建仁 文学部宗教主事
- 30日(火) 小坂橋秀行 日本キリスト教団名古屋守山中区教会牧師
- 5月1日(水) 吉松 純 大学宗教主事
- 2日(木) 松谷暉介 薬学部宗教主事
- 2日(木) 小室尚子 学院長・宗教総主事・大学長
- 7日(火) 中島善子 日本基督教団豊橋東田教会牧師
- 8日(水) 山田詩郎 日本基督教団名古屋北教会牧師
- 9日(木) 松谷暉介 薬学部宗教主事
- 9日(木) 落合建仁 文学部宗教主事
- 10日(金) 吉松 純 大学宗教主事
- 13日(月) 狩野進之佑 日本基督教団愛知守山教会牧師
- 14日(火) 置田牧人 大学運営推進部大学運営推進課長
- 15日(水) 加藤明宏 愛知いのちの電話協会事務局長
- 16日(木) 吉澤 永 日本基督教団愛知教会牧師
- 16日(木) 落合建仁 文学部宗教主事
- 17日(金) 和田芳子 日本基督教団東海教会牧師

ペンテコステ記念週間

- 20日(月) 朴 相俊 生活環境学部教授
 - 21日(火) O'QUINN, Caitlin R. 教育宣教師
 - 22日(水) 吉松 純 大学宗教主事
 - 23日(木) 松谷暉介 薬学部宗教主事
 - 23日(木) 南 尚浩 愛隣教会牧師
 - 24日(金) 神山美奈子 名古屋学院大学准教授
- ### 春の伝道週間 (ミッション・ウィーク)
- 27日(月) 戸蒔 創 理事長
 - 28日(火) 小室尚子 学院長・宗教総主事・大学長
 - 29日(水) 野々垣慎治 中学校・高等学校校長
 - 30日(木) 児玉 芽 幼稚園長
 - 30日(木) 小室尚子 学院長・宗教総主事・大学長
- ### 特別讚美 ハンドベルクワイア
- 31日(金) 林 小夜子 みどり野会会長
 - 6月3日(月) 吉松 純 大学宗教主事

- 27日(木) 小室尚子 学院長・宗教総主事・大学長
- 27日(木) 山田麻衣子 日本基督教団名古屋北教会牧師
- 28日(金) 落合建仁 文学部宗教主事
- 7月1日(月) 松谷暉介 薬学部宗教主事
- 2日(火) 大住共平 日本基督教団知立伝道所・碧南教会牧師
- 3日(水) 楚輪松人 文学部教授
- 4日(木) 南 尚浩 愛隣教会牧師
- 4日(木) 落合建仁 文学部宗教主事
- 5日(金) 吉松 純 大学宗教主事
- 8日(月) 長屋頼子 学院長補佐
- 9日(火) 小室尚子 学院長・宗教総主事・大学長
- 10日(水) 田口博之 日本基督教団名古屋教会牧師
- 11日(木) 稲田勝之 日本基督教団中京教会牧師
- 11日(木) 松谷暉介 薬学部宗教主事
- 12日(金) 山田詩郎 日本基督教団名古屋北教会牧師
- 15日(月) 和田芳子 日本基督教団東海教会牧師
- 16日(火) 中島善子 日本基督教団豊橋東田教会牧師
- 17日(水) 日比野直子 人間科学部准教授
- 18日(木) 松谷暉介 薬学部宗教主事
- 18日(木) 落合建仁 文学部宗教主事
- 19日(金) 狩野進之佑 日本基督教団愛知守山教会牧師
- 22日(月) 小室尚子 学院長・宗教総主事・大学長
- 26日(金) 落合建仁 文学部宗教主事
- 29日(月) 吉松 純 大学宗教主事
- 30日(火) 安藤 剛 事務局次長
- 31日(水) 小坂橋秀行 日本キリスト教団名古屋守山中区教会牧師
- 8月1日(木) 松谷暉介 薬学部宗教主事
- 1日(木) 小室尚子 学院長・宗教総主事・大学長
- 2日(金) 落合建仁 文学部宗教主事
- 5日(月) 吉松 純 大学宗教主事

(赤字は昼の礼拝です)

朝の礼拝

日時 月～金曜日 8時45分～9時00分
場所 エラ・ヒューストン記念礼拝堂

昼の礼拝

日時 木曜日 12時40分～12時55分
(伝道週間は13時5分迄)
場所 エラ・ヒューストン記念礼拝堂

祈祷会

日時 水曜日 8時10分～8時25分
場所 キリスト教センターラウンジ

キリスト教の時間

日時 6月11日(火) 17時00分
場所 アニー・ランドルフ記念講堂
講師 ウィリアムズ郁子 (イギリス国教会司祭、ICU評議員)

大学教員キリスト教セミナー

日時 8月7日(水) 10時00分～15時00分
場所 エラ・ヒューストン記念礼拝堂他
講師 須田拓 (東京神学大学教授、日本基督教団橋本教会牧師)

軽井沢バイブルキャンプ

日程 8月28日(水)～30日(金)
場所 軽井沢スマイスハウス
講師 森島豊 (青山学院大学総合文化政策学部教授)

オルガニスト養成講座

朝と昼の礼拝で奏楽を担当するオルガニストを養成する講座です。詳細はHPをご覧ください。5月31日(金)申込締切。

スマイス奨学生

本学における福音主義キリスト教に基づく、信仰の奨励とキリスト教活動の推進を図ることが目的です。詳細はHPをご覧ください。5月8日(水)申請締切。

クリスマス献金報告

献金総額 (幼稚園・中学校・高等学校・大学) 699,728円
皆様のあたたかいお志とご協力に深くお礼申し上げます。
送金先はHPをご覧ください。

金城学院大学キリスト教センター

Tel. 052-798-0180
E-mail. ccoffice@kinjo-u.ac.jp
URL: <https://www.kinjo-u.ac.jp/ccoffice/>



※各行事は諸事情により変更となる場合がございます